



靈峰羊羹 小川郷前 平屋賣店

潮聲

甲戌新唱 第六十四集 甲戌一月旬會

ゆるぎなき國の光りや初日の出 佐藤 素秋
皇子生れしけさのあけや霜の花 天野 雨山
かぎりなき御代めでたけれ霜の花 岩井 五水

日の子の幸祈りけり居蘇の醉 清宮 文峰
初朝黎明の空雲もなし 渡邊 夢人
活け終えし藜の影も去年今年 大野 齋雨

無爲無務に生きて七十一の春 片寄 文升
萬歳のいづれめでたき御構へ 高久 晚霞
初詣敷石しかとよみしめて 青山香村子

神石や常勝國の初日の出 金子 石城
大觀の富士を懸けたりお元日 渡邊 武門

嫁と姑 古河人専係長
次母の留守に於ける見 於ける不和に於ける見

磐城名物 靈峰羊羹

社會不安と既成宗教

我々人間生活の文化的形式は宗教に依つて主として規定されて来たが、價値と目的を教へたものは、佛敎であつたと言へよう。

社會不安と既成宗教 六門 上 ケイ、エム生
驅逐したことは一つの事實であつて、近代文化史は唯

幕末神風組 土生太郎作 高根秀浩書
(105) 神風組 (六)

社會の今日 梅が香に月の曇りや西行
せがむ子にクローンの書を描いてやる機先に見る雨のあかき

嫁と姑 (續) 於ける不和に於ける見

社會機構が支配的であり、人間性は宇宙的な法則や威の力も社會機構に依つて蔽はれ、それが第一義的

は社會機構が支配的であり、人間性は宇宙的な法則や威の力も社會機構に依つて蔽はれ、それが第一義的

幕末神風組 (續) 武士が突然千鳥足と云つた格好で、踏躑としてやつて來た

嫁と姑 (續) 於ける不和に於ける見



は御木本九平太、扱ひつけぬ短筒の筒先を淺野の身体を的にビツタリとねらひ定めてゐる

「あつ、來ましたせ」 「如何にも」 「おつ、大膽な奴だ、一人であつて來る」

「あつ、來ましたせ」 「如何にも」 「おつ、大膽な奴だ、一人であつて來る」

「あつ、來ましたせ」 「如何にも」 「おつ、大膽な奴だ、一人であつて來る」

防寒メリヤス 專賣特許毛メリヤス 防虫加工純毛メリヤス...

今流行の 昭東京福 和京島 音音音 頭頭頭 店計時堂光金

大谷時計病院 十燭以下十二錢... 電話十九番

安齊外科醫院 入院隨意 自炊の便あり 電話四八二番

元氣一ぱい 目下包紙のレットナル二枚で 著書器の當の特買中

